

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170300232		
法人名	医療法人 啓心会		
事業所名	グループホーム けいしん		
所在地	佐賀県鳥栖市飯田町69番地1 (電話) 0942-81-1185		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 20年9月22日	評価確定日	平成 20年10月19日

【情報提供票より】(平成20年9月1事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 6月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	14 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	8 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	59 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	門司歯科医院 啓心会病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>豊かな田園風景に囲まれたグループホームで、「家庭的で楽しい雰囲気のある場を提供します。ふれあい、よりそい共に関わりながら共同生活を致します」という理念のもとで、心と心が潤う、家庭的で親身な温かさを大事に、日々のケアに取り組まれている。また地域との連携も年々強くなり、季節の行事や防災時の対応など多くの支援を受け、ホームも地域にその機能を還元し、地域に根ざした運営がなされている。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価で、指摘された点についても、評価を有効に活用し具体的な改善に取り組まれ、改善がなされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価を実施する意義を全職員が理解されている。また、評価することでさらにサービスの質の向上に意欲的に取り組まれている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回、運営推進会議が開催され、区長、民生委員、老人会長、管理者2名、主任、家族が参加し、ホームでの状況や行事予定の報告が行われている。参加しない市に対しては、粘り強く参加を呼びかけ、市と共にサービスの質の向上を図っていくことが期待される。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関口に意見箱を設置し、年2回の家族会や訪問時に情報交換が行われ、そこで出た意見を運営に反映されている。また、毎月発行するホーム便りに写真を載せる事で、ホームでの様子、行事予定がわかりやすく、職員からのメッセージで家族との情報交換がうまく図られている。遠方の家族にも郵送し報告されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域との連携がますます強くなり、行事や避難訓練なども企画段階から協力が得られ、地域参加ができています。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭にいるような温かさの中で、生きる喜びと自立を育てたいと「家庭的で楽しい雰囲気を提供します。ふれあい、よりそい共に関わりながら共同生活を致します」という理念が作り上げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の朝礼で、職員全員が理念を唱和されている。入居者や家族の目が付きやすい場所に理念が掲示されている。日常の支援の中でも常に振り返る時間を大切にされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事等の連絡も必ずあり、地域清掃活動や文化祭への作品の出品、公民館での勉強会、保健センターの地域主催の会等に参加し、地域との交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各担当が責任を持って行われている。自己評価することで全職員が振り返り、改善に向けて意欲的に取り組む事ができている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地区の区長、老人会会長、民生委員、家族が参加し、行事予定や行事後の評価を行い、情報交換が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市へ粘り強く参加交渉をされ、区長の協力もあり、運営推進会議や高齢者グループホーム事業所連絡会等の市の参加も決まり、市とともにサービスの質の向上に取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホーム便りを毎月発行し、ホームでの様子、行事報告、写真、健康診断の予定等を記載し訪問時に手渡したり、遠方には郵送されている。またスタッフからの一言で家族との情報交換が密に図られている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会で意見交換が行われている。また訪問時に家族と情報交換を行い、会話の中での意見を運営に反映されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動に関しては、入居者に影響がないように情報交換を密に行い、人選にも配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修や病院研修が月に1回あり全員参加されている。また外部研修も職員が積極的に参加できるように支援されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高齢者グループホーム連絡協議会や外部研修参加時に作ったネットワークを通して、情報交換や職員交換研修を行い、サービスの質の向上に取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者の生活歴や趣味等家族から情報収集を行い、不安がないように家族の協力を得ながら、個別対応がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	感謝の言葉をかけながら、入居者と一緒に食事作りや茶碗洗い、配膳をされている。また畑の作物の収穫時には喜びを共有しながら収穫されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者が入居者・家族からしっかり話を聞き、職員全員で共有し意向の把握に努められている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からの聞き取りを十分に行い、毎朝の申し送りや終礼で気づきを出し合い、カンファレンスやモニタリング、サービス担当者会議でその方にあった介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングが行われている。また変化が見られたときは、カンファレンス・担当者会議を開き、現状に即した対応や心身状態にあったサービス計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が通院対応出来ないときは、ホームが通院対応されている。リハビリ通院支援も行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体病院の定期受診や往診も行われている。かかりつけ医の受診支援も行われ、ホームと病院との情報交換も密に行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	母体に病院があるので、終末期ケアは行われず、入居時に家族に説明が行われ誓約書に同意を取られている。入居者の状態変化時は家族・病院と情報交換を密にとり対応されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いは、入居時に本人・家族に説明し同意を得られている。入居者のプライバシーへの対応も細かく配慮され、適切に対応がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	アセスメントを十分に行うことで、入居者の力を引き出し、できる事や好きな事は自然と取り組まれるように支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の希望を聞きながら季節感を大事にした献立作りがなされている。また入居者も盛り付けや味見を行い、箸や湯飲みの準備から食器洗い、お盆拭きまで、出来る範囲で職員と一緒に取り組まれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後からは入居者の病院受診やリハビリがあるので、週3回、午前中に入浴は実施されている。しかし、本人の希望時や体調不良等には柔軟に対応されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	四季折々の行事を計画し、家族に参加を呼びかけ一緒に楽しまれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎月の買い物ツアーや近所の神社まで散歩されている。また敷地内にある畑の作物を見に行ったり、売店を覗いたり、出来るだけ戸外に出かけられるように支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りの中、自由に出入りできるように鍵はかけられていない。しかし、2階ということもあり、事故防止のために、ドアにセンサーを取り付け音楽が流れるようになっていく。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回に通所との合同避難訓練が昼間行われている。また夜間想定消防避難訓練は毎年4月に、地域の方と一緒に役割を決め実施できている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医、栄養士と相談しながら、個人ファイルを作成し食事、水分摂取量の把握に努められている。また水分が摂れない入居者は手元にお茶を準備しいつでも飲むように努められている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	転倒時のけが防止の為に全フロアーにカーペットが敷かれている。ホーム玄関には四季を感じさせる花が大きな花瓶に飾られ、廊下や居間には入居者の写真等貼られ明るくにぎやかである。また、有線を利用し入居者に合わせた音楽を流すことで居心地よく過ごせるように工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンス・ベッドは備え付けられている。テレビや仏壇など、持ち込みには制限がなく、入居者が落ち着く居室作りがされている。		